

地域密着型サービス評価の自己評価票(B棟)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、地域密着型サービスに即した理念につくりなおしている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務所内に掲示し、日々、意識できるようにしている。また、会議などで実現にむけての話し合いを行っている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族説明会、運営推進会議を通して、理念の説明を行っている	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設から500m以内に近所がなく、日常的な付き合いが難しい	○ 隣近所のかたの来訪はなかなか難しいため、こちらから積極的に地域にでていくようにする。 介護交流会を行い、地域のかたにも参加していただき、話をする機会を作っている
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入 地域の夏祭りの際、子供みこしが来てくれ地域のかたと共に、楽しんでいる	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区のコミュニティセンターと連携を図り、企画を行う予定である		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全スタッフより意見をあつめ、リーダーがまとめている。改善点について、会議や申し送りなどで確認し、改善むけて取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ごとに会議を行っている。積極的な話し合いができるよう、意見交換の場面を多くしている。 また、実際に施設行事への参加をしていただき、意見を伺っている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	土浦市地域密着型サービス連絡会に参加し、介護サービスの適正な提供や質の向上について市の意見を聞く機会がある		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修への参加や施設で勉強会を行っている		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を行い、虐待について学び、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明を口頭及び、書面にて行い、理解納得した上でサービスが利用開始できるよう努めている。 利用開始後も疑問点、不明点などないか確認し、早急にお答えできるようにしている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、介護相談員との連携を図っている 意見や苦情などきかれた時には、朝礼を通して他棟にも伝え、改善にむけた取り組みを行っている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に最近の様子など伝えるとともに、小遣いの確認、領収書の返還などしている。 また、スタッフの顔写真を廊下に掲示し異動などについてわかるようにしている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 家族説明会にて、御家族から直接、意見等を伺い早急にお答えできるようにしている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダースタッフを中心に会議の場や普段から意見を聞くよう努めている また、アンケートを作成し全スタッフ対象に意見を求める機会を設けている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の心身状況などにあわせ、勤務時間の調整を行い、必要な時間に人員を配置できるようにしている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動等があれば、入居者様に挨拶、説明をその都度行っている。 また、廊下の入居者様の見やすい位置に、スタッフ紹介の顔写真を掲示している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会を中心に、月1回施設内にて勉強会を行っている。 ユニット会議にてテーマを決め、それについてレポートをまとめ、意見交換など行い、ケアの向上、意識の統一を図っている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に3回介護交流会(勉強会)を企画、開催し、土浦市内の他グループホームスタッフとの交流を図っている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リーダースタッフを中心となり、スタッフの心身状況に気を配っている 休憩時間や業務終了後など、話を聴く機会をつくり、ストレス軽減につとめている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	OJTに取り組んでいる。リーダースタッフと共に半年間の目標をもち、日々のケアに取り組んでいる。目標達成のためにリーダーが中心となりフォローしている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に必ず一度は、顔をみてお話させていただいている。病調にうかがった際、本人よりじっくりと話を聴くよう努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に少なくとも1度はホームに来ていただき、生活の雰囲気を感じていただきながら、お話をうかがっている。また、よりよい生活に向けた準備などを一緒に考えさせていただいている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所や病院のSWと連携をとりつつ、本人にとって1番よいサービスが利用できるよう、他サービスの利用も含めた支援を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、必ず本人、御家族に施設の見学にきていただくようすすめている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作り、料理の作り方、季節行事等で助言やアドバイスをいただく機会を多くもっている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にカンファレンス用紙を活用し、希望や意向を伺いながら協力を得られるようにしている。 遠方や面会の少ない御家族には、その都度電話にて、相談させていただいている	○	4月より毎月のカンファレンスの記録を御家族に送付し、ご本人の様子について書面でも確認していただけるようにする予定である
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族参加の行事を年3回企画し、参加呼びかけをしている これまでの関係に配慮しつつ、定期的に面会にきていただけるよう促し行っている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや自宅周辺への外出など、御家族の協力を得ながら行っている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方とゆっくり過ごせるような席の配慮をしている 上手くコミュニケーションがとれない方には、スタッフが話の仲介を行ったり、同じ空間にて過ごせるような配慮をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後もいつでも遊びにきていただけるよう、また困り事があれば相談にのらせていただくこと伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で聞かれた言葉や行動、表情などから思いを探り記録に残し、会議や申し送りなどで情報共有している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、御家族にアセスメント用紙を記入していただいている。 また、面会時などに話を伺うようにしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のアセスメント表を利用 申し送りや個人記録を活用しながら、日々の様子の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは、個々の担当者を決め行っている 月1回のカンファレンスの前に担当者が用紙の記入を行い、全スタッフが目を通し、情報の共有、課題の確認をしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のカンファレンスにてケアプランのモニタリングを行い、プランの修正行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとに、ケアプランのモニタリングを行い、見直しを行っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関や居宅支援事業所などと連携をとっている また、月1回保育園児との交流会を行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	カラオケ、ハーモニカなどのボランティアの方が定期的に来訪されている	○	定期的にボランティアの方と意見交換する場をつくっていききたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	心身状況の変化や本人や御家族の意向にあわせて、スムーズにサービスの利用ができるよう他事業所との連携を図っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在まで協働したケースなし		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の馴染みであるかかりつけ医に受診できるよう御家族に受診援助依頼している。また、最近の様子がわかるよう上申書を用意し、連携を図れるようにしている		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関以外にも、入居者様のかかりつけ医に相談等行い、助言いただいている 必要に応じ、専門外来の情報提供行っている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、連携看護師来所し、健康状態の確認、助言、アドバイスなど行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のSWと連携を図っている 入院中、スタッフがお見舞いにいき病棟スタッフとの情報交換など行っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の心身状態の変化にあわせて、その都度話し合いの場をもち、御家族の思い、希望の確認をしている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りマニュアルを作成してある 連携看護師や医療機関、御家族との連携を図り、予測される状況やホームでできることを伝えながら行っている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	法人内では、連携サマリーを作成し、情報の共有を図っている 他施設への転所時には、退所サマリーを作成している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレや着替え時などの声かけの仕方などに配慮している ユニット会議にて接遇の振り返りを行っている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定できるような言葉かけに努めている レクへの参加や好きなものの選択など、自分で選べるような場面作りをしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目の届くところに献立や今日の予定などを掲示し、自己決定したり楽しみとなるようにしている。 希望にあわせて、買い物など外出できるようにしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回移動美容室を利用している 普段、化粧をされない方でも、行事や誕生日など特別の日には お化粧など行っている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の前や準備中、メニューについての話題をだし関心が向き楽しみとなるよう配慮している 直接、調理に携われなくても、机に材料を広げ近くで食事の準備をするなどの工夫をしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好品については、一緒に買い物へ行き選んでいただいている。 水分補給時は、好みをきき提供している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄間隔や時間をみてさり気なく声かけ行っている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や曜日を決めず、本人の希望にあわせて入浴行っている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムが整うよう、日中活動的に過ごせるよう配慮している また、なかなか入眠できないときには、温かい飲み物などを提供するなどしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできることや好きなことを探りながら、洗濯物たたみ、食器拭き、包丁研ぎ、畑仕事など役割がもてるようにしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時、自分の財布より支払い行っていただき、さりげなく見守り行っている 外の自販機にて飲み物を購入する際は、自分で購入してもらうようにしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物の希望時には、なるべくその日にいけるようにしている。その日にいけないうちは、いける日を本人に伝え、楽しみとなるようにしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日など、行きたいところへいけるよう計画をたて支援している。また、御家族に協力を依頼している 定期的な行事の計画をたて、ドライブなどでかけられるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった時には、支援行っている また、御家族からの電話があった時には、本人が電話口にてられるよう支援したり、スタッフが仲介している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室やリビングなどでゆっくりとすごせるようお茶をだすなどしている また、他者の視線をあまり感じないような配慮をしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのポスターを事務所内に掲示している 会議や申し送りなどを通して、安全に過ごせるためのケアについて話し合っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーチャイムを設置している また、スタッフが行動の見守り行っており、スタッフ間で情報共有している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	外へ散歩に出た時などはついていくのではなく、どの方向へ行くのかを見守り、遠くに行くようなときには一緒に散歩に行くようにしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室へ訪問した時や掃除の際、居室内環境確認している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ、ハット用紙を活用し、個人にあわせたリスクの把握を行い、日々のケアやケアプランに活かし事故防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの作成しつつ、学習会など行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携を図り、定期的に訓練行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時など心身状況の説明とそれに伴うリスクについて話をしている また、ケアプランを作成しリスクの対応策を御家族と共有している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っている。普段の様子と違うことがあれば、記録に残している。また、協力医療機関へ連絡し、指示を仰いでいる		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの一番前に薬の一覧表をいれ、確認しやすいようにしている 薬の変更、それにとまなう注意点がある時にはわかりやすいよう印をつけている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖入りの飲み物や乳製品の提供をしている 食後、トイレに行った際腹部マッサージ、ウォシュレットなどにより排便うながしている	○	音楽などにあわせて、楽しく体を動かせるようにしていきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりにあわせた口腔ケア行っている うがいなど困難な方については、ガーゼで口腔内残渣の除去行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあわせて、食事提供量の調整している。希望に応じて、飯の代わりにパンや麺類の提供を行っている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが作成されている また、感染委員会により、時期に合わせて資料を用意したり、勉強会を行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に調理器具の消毒を行っている。包丁、まな板は使用后、熱湯消毒している。 食材は、賞味期限を確認しながら使用している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にプランターをおき、花など植えている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見やすい位置に日めくりカレンダーや手作りのカレンダーをおいている。 また、季節の花や飾りなどを飾っている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを置き、テレビを見て過ごしたり、他者との会話を楽しめるスペースを作っている また、他者からの視線を感じにくい場所にソファを置いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのたんすや家具などをもってきていただいている 本人と一緒に使いやすく、危険のない配置になるよう行っている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者様の体感温度や衣類等にも考慮し、適温に心がけている 朝の掃除の時やリビングにてすごされている時などに居室内の換気を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなど要所に手すりを設置している 入浴時は、身体状況にあわせて、滑り止めマット、シャワーチェア、バスチェア使用している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に目印をつけている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	室内から見えるところにも、花を植え季節を感じられるようにしている 中庭に畑があり、季節の花や野菜作りをしている。椅子やベンチを置き、他棟との交流が図れるようにしている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年を重ね認知症になり日常生活の中にわかりづらいことやできにくいが増えると、不安や孤独、あきらめを感じるが多くなります。私たちはお一人ひとりが培ってきたこれまでの暮らしや習慣、なじみの関係を継続できるよう支援します。不安や悲しみはさりげなく寄り添い、自分でできる喜びや楽しみは共に喜び笑顔で「今」を過ごしています。また、季節感のある飾り付けや置物、室温や光の調整、スタッフの立ち居振る舞いなどに配慮し、ほっと心が和む居心地のよい環境作りに取り組んでいます。ご本人、ご家族、地域の皆様から信頼されるホームとなるよう、人とのつながりを大切にしています。